

## ＜政策科学会 2008 秋季公開講演会＞

# 彦根城下町の挑戦

—ゆるキャラ®の活用—

講師 安達 昇氏

彦根商工会議所中小企業相談所次長

**司会** ただいまより 2008 年度政策科学会秋季講演会を開催いたします。開会にあたりまして政策科学会長の本田先生よりご挨拶を申し上げます。

**本田** 今日は「彦根城下町の挑戦—ゆるキャラの活用—」ということで、彦根商工会議所の安達昇さんをお迎えして講演会を開催いたします。キャラクターとして思い出すのは、子どもが小さい頃、枚方パークに連れて行って、いろんなヒーローを見せたことを思い出しますが、民間におけるキャラクターには歴史があって、一つのビジネスモデルとして確立してキャラクターが活躍しているんですね。公共部門におけるキャラクターというのは一番大きいのは NHK の「お母さんといっしょ」とか教育番組がありますけど、地方におけるキャラクターというのは、あまり動きがないわけです。交通安全などの時に小さな子どもたちに腹話術のお人形さんを使ってやるとか、若狭に三方五湖がありますが、それを真似て五湖レンジャーとか、交通安全もそうですが、啓蒙活動のためにキャラクターを利用しているというところがあります。でも「ひこにゃん」は啓蒙というより、地域の活性化、彦根の地域の活性化のために生み出されたキャラクターではないかなと思います。そういう意味では面白い取り組みであると思います。私も今日は「ひこにゃん」についていろいろとお話を聴くことができるということで、今日の講演を皆さんと聴きながらいろいろ学びたいと思いますので、最後までご静聴のほどよろしくお願いいたします。

**司会** ありがとうございます。では続いて講演に移らせていただきます。本日の講師の安達昇さんのプロフィールを簡単にご紹介させていただきます。安達昇さんは昭和 60 年、彦根商工会議所に勤務され、平成 17 年度より現在の中小企業相談所次長として中小企業の経営相談などをしておられます。そうした中で昨年度は彦根城築城 400 年祭において、実行委員会の事務局におられ、彦根まちなか博物館の企画の運営に携わられました。他

に現在、有限責任事業組合「ひこね街の駅」にもかかわっておられます。そうした中で彦根のまちづくりに携わられたお話を聴くことになりました。では安達さん、よろしくお願ひします。

**安達** 皆さん、こんにちは。本日、ご縁がありまして京都にまいりました。インターネットで検索したら引っかけたということで彦根からやってまいりました。本業は彦根商工会議所で経営指導とか、商店街の活性化とかイベントにかかわっています。決して私は「ゆるキャラ」を本業にしているわけではないんですが、今日、私がお招きいただいているのは、最近ブームになっております「ゆるキャラ」ということで、どんなふう彦根で行っているか。彦根と言えば「ひこにゃん」ということで、キャラクターのイメージがありますので、その背景など、突然「ひこにゃん」がポーンとできたというイメージがありますが、実はそのバックボーンとか歴史的なものがありましたので、若干、そのへんをご説明させていただいて「ひこにゃん」のことを皆さんにもご理解いただきながら、いろんな地方で使えるのではないかと考えております。

さっき呼び込みで、出てきたのは「しまさこにゃん」なんですけど、彼は頑張って彦根のまちのために PR してくれています。「ひこにゃん」はお城にしかいません。「しまさこにゃん」は、まちの中に生息しております。そのように棲み分けしています。

まずは簡単に彦根の概要。滋賀県の東北部、長浜に近いところで、新快速で 1 時間半ほどで十分行ける範囲なので、皆さんに来ていただきたいと思います。近江を制するものは日本を制するというので、織田信長の安土城、秀吉の長浜城、家康も井伊家を彦根で押さえていましたという関係がございます。

西軍武将の佐和山城、これは石田三成、豊臣秀吉方の家臣です。またすぐ近くの彦根山には彦根城がありま

す。11万1000人という地方都市の代表の彦根です。

これは上空からの写真ですが、滋賀県の真ん中に琵琶湖がありまして、すそ野が広がるという形になっています。長浜の黒壁も有名ですが、彦根の方は江戸の町をつくったことで有名で、現在、脚光を浴びております。総人口は減ることが多いんですが、彦根は微増しています。しかし中心市街地の人口が減っていることは全国的な傾向です。観光客は年間300万人くらい来られます。しかし交通の便がいいので日帰りする人がほとんどで宿泊者は20万人という、10分の1しか宿泊してくれません。宿泊してもらった方が、お金が入るのですが、現状はそういうことであります。

「夢京橋キャッスルロード」、ここは建て替えをしました。拡幅前の道路はバスが通って、車が通って危ないなということで、これを、道路拡幅をしました。6メートルの道路を18メートルに拡幅しようという事業です。これは平成元年から事業にかかり、平成10年に完成しました。基本的に建物をとり壊して江戸の町並みができています。古い江戸時代の建物を取り壊し、銀行なども江戸町家風につくりかえています。

建築物に関する条例をつくり、それで縛りをかけて町並みを保存しています。建物は家並みが揃うように美しい景観に配慮したまちづくりをしております。関が原の合戦で徳川側の東軍が勝ち、井伊家が入ってまいりまして、1603年、400年前にこの場所で城下町をつくったという事実がありましたので、ここは江戸町風に変わってまいりました。ここを通行止めにして、いろんなイベントなどをやっております。すぐ横に市場商店街がありました。公設市場として生鮮産品、肉や野菜、魚屋を中心とした商店街でしたが、だんだんと郊外のスーパーに押されて廃れてしまってシャッター街の代表的な場所でした。そこも結果的に彦根の場合は建て替えています。四番町スクエアと名称を付けて、昔は旧町名で一番町、二番町と言っていました。ここは四番町という町名でした。そこもファサード整備にしまして、ファサードというのはフランス語で顔という意味なので、顔を統一しようという事業に取り組みました。ここは大正時代にできたので、大正の町をコンセプトに区画整理事業としてつくり直しました。大正ロマンというと難しいですが、和風と洋風の間のイメージです。

彦根の町並みはこのようにいろんなコンセプトを持ってつくり上げています。ヨーロッパ調の町とか和風の町

とか、いろんなまちづくりにコンセプトを持って進めていきました。そんなところで、よくよく考えてみますと、古い場所にもいいところがあったのではないかと、もう一度見直しましょうということで、古い町並みも、まちづくりの取り組みとして見直していきました。そうすると古いものが残っているところが出てきました。真ん中が城。その近辺、城を中心として昔ながらの魚屋町、魚屋さんが多いまち。足軽組屋敷ゾーン、足軽が住んでいた場所も残っています。花しょうぶ通りゾーン。中心市街地から少し北にある商店街が、非常に元気で、今回のキャラクターの取り組みに非常に積極的でした。

古い町並みを考え直しましょうとシンポジウムを単発的にやったんですが、単発では勿体ないと、結果的にNPO化しようということで「彦根景観フォーラム」という名称で彦根の歴史、まちづくりをもっと考えましょうよと。そして400年以上前の彦根城を中心として、映画にもなっている舞台を皆で見てください、昔はこんなだったと勉強会をやりました。NPO法人「彦根景観フォーラム」の取り組みです。

大学との連携もあります。ユビキタス。最近よく耳にしますが、これは何かというと、携帯電話は普及率の高いコンピュータなんです。インターネットやメールができるコンピュータと一緒にです。昔ながらの図書館で見られない画像などを携帯電話からインターネットにつなげれば、すぐ入手できます。彦根の場合は学習型観光、勉強しながら観光しましょうとやっております。地元の滋賀大学と連携して「彦根ユビキタス産業協議会」という組織をつくり、まちづくりの仕掛けをつくりました。簡単に言いますと、京橋という橋がかかっています。ここに石垣があります。このQRコードを読み取ってインターネットにつないでいくと、昔は櫓があったんです。しかしこれを明治初期にお城のとり潰しによって潰されてしまいました。しかし櫓の跡は残りましたということで、昔は櫓があったのかということで、現場で確かめると、何となく400年前のイメージがあると、何か違った観光ができるのではないのでしょうか。勉強しながら、1日だけでは彦根は周りきれないのではないかと思います。いただいて、リピーターとして、宿泊しないと彦根の観光はできませんよということをやっております。

「国宝・彦根城 築城400年祭」を昨年実施しました。過去にも例があるんですが、20年前、1987年に世界古城博覧会をしました。20年前ですからバブルの、いい

時期で、パビリオン型の博覧会を行っておりました。その時も「城丸君」というキャラクターがあったんですが、その時はそんなにキャラブームではなかったのか、今は、もうないんです。パビリオン型で箱ものをつくって、その会場をとり壊して公園にするという、勿体ないイベントでした。その10年後、1997年、築城390年祭をしましたが、イベント会社に任せてしまい、不完全燃焼でした。2004年12月、当時彦根市は市町村合併問題がありました。合併をしなければ特例債はないということで、一生懸命、市長が運動していましたので、築城400年祭にかかっておられないという、それがホンネだったと思います。400年祭に向けて、10年前の失敗をしてはいかんということで、じゃ、商工会議所として地域圏の活性化として築城400年祭を何か考えましょうということでコンセプトの提案を行っていったわけです。築城400年祭が、2007年3月から11月に、今年の400年祭の事業へと移行してまいりました。

再発見と新創造。箱ものは、いらぬ。もう一度、あるものを再発見して、そして発信していこう、継続していこう、継続的なイベントを企画していきましょうということで、一過性では終わらせたくないということが思いとしてありました。そのへんが今回の築城400年祭の流れであります。

しかし築城400年祭ということで、お城を中心としてイベントをせざるをえない。城を一つのテーマパークとして、そのイメージで普段公開していない櫓の中を見ていきましょうと、それがメインになりました。井伊直弼から14代目、井伊家をめぐるイベント、これは話題づくりで、フィギュアスケートの安藤美姫さんのコスチュームをデザインされた和田エミ衣裳展、彦根が結構、舞台になっていますから、そのような写真展、世界遺産とか。彦根では実は昭和36年から井伊直弼の曾孫の方が市長をされていました。9期連続で36年、市長をされていたので、彦根城という点ではよかったです。佐和山城という石田三成の居城があります。佐和山城の話彦根ですと、本庁から飛ばされるという、へんなジククスがあって、絶対にさわれない。井伊さんの末裔の市長さんが交代してから、築城400年という、じゃ、佐和山城も落城400年だと商工会議所の青年部のメンバーが言いました。そこで小学生の子どもたちにベニヤ板400枚に絵を描いてもらって大きな絵にしてライトアップする。3週間行いましたが、最後には花火を打ち

上げて佐和山城の炎上です。そんなイベントがありました。

彦根城をライトアップ事業。その他にも築城400年祭を機に市民たちが前面に出てきました。今までのイベントは行政の主導で、なかなか市民が出てこないことがあったんですが、今回に限っては40年に一回だから私たちが何かしようということで「彦根を盛り上げ隊」。自分たちで変装しているんですね。お侍さんになったり、町の人になったり、鎧をつけたり、観光案内をして、写真を一緒にとりましょうと、そんなことはできないけども、お花を活けることぐらいはできますよと「まちをきれいにし隊」「トイレをきれいにし隊」とか、いろんな思い思いのコンセプトを持って、取り組んでいかれました。

彦根まちなか博物館、商工会議所の取り組んだ事業で、再発見という点で、彦根は井伊家の財宝がたくさんあります。しかしながら、まちなかにも財産がたくさんあります。近江鉄道は彦根発祥の地で、それを前面に出してみようとか。日下部鳴鶴という書道家の作品がたくさんあるので、まちなかの博物館をしましょうと。学生、主婦、会社員、社長、多彩なメンバーでボランティア活動をしていただきました。ある大学の学生さんでボランティア単位があるんですね。何時間かボランティアをしたら1単位になる。何時から何時までと来てもらって、大変ありがたかったです。住民たちの中で、いきいきとかかわっていただきました。

彦根の中をベロタクシーが走っています。京都にも走っていますね。彦根ではNPO法人をつくって、これも県立大学の学生が中心になって、ベロタクシーのドライバーの運営にかかわっています。現在もやっています。築城400年祭に間に合わせようというのが合言葉でした。それまで滋賀県で自転車に2人乗り、3人乗りの複数人乗ることが県警でなかなか認めてもらえなかったのですが、熱い思いを持って接して行って、結果的には区域限定ですが滋賀県下で、ベロタクシーが走れる状態になりました。築城400年祭に合わせて出てまいりました。そのデザインにも「ひこにゃん」をあしらっています。何かにつけて「ひこにゃん」を使った方がPR度が高いということです。

これはNPO法人LLP（有限責任事業組合）です。なぜか商工会議所にも入ってくれと言われながら個人的に出資しました。次は、湖東焼という焼き物です。これは

井伊直弼が、自分は十三男なので殿様にはなれないということで勉学に励んだということがありますが、その時に焼き物に目覚めたということで、結果的に、湖東焼をつくりました。それがいったん廃れましたが、それを復興しようということで、実際に彦根の土を使って窯をつくって現在も継承している団体があります。

築城 400 年祭がらみで本体事業だけではなく、周りの市民の方たちがかかわってきたということがあります。次によやく、「ひこにゃん」です。

「ひこにゃん」、非常に人気があったので、市長が悪のりをして特別住民票を与えたんですね。どこに住んでいるか。お城なんですね。

「ひこにゃん」、そもそも何なのか。築城 400 年祭、昨年 3 月から 11 月までのイベントをする時のキャラクターとして募集をしました。デザインコンペで 10 社、専門家の方からいろんな図柄を募集しました。彦根にまつわる話をデザイン会社からデッサンしてもらって一次審査、二次審査を経て、ねこが兜を被っている、これがいいたろうということでこれに決定しました。それから名称を募集。一般公募しまして愛称を「ひこにゃん」に。1167 件応募があって、ひこにゃんも、ひらがな、かたかな、漢字もあって、この「ひこにゃん」というフレーズがいいと。最近、「ゆるキャラ」などのオーストリティのみうらじゅんさんなども「ねこ系というのが流行りますね」と。ねこと「にゃん」というのが音感がいいのではないかと、彦根なので「ひこ」は外せないだろうと。結果的に「ひこにゃん」が一次審査、二次審査の難関を突破して当選した。この図柄とあわせて「ひこにゃん」というのが定着していきました。

これも県外からの応募が 6 割くらいでした。東京、大阪、愛知、神奈川の順で応募が多かったんですが、現在の観光客の動向もそれに似ています。東京、大阪が逆転することはあっても、新幹線で来ればすぐだからと、東京、神奈川からも結構多いですよ。その点では「ひこにゃん」という名称と関心度は、ほぼ一致しているのではないかと思います。

平成 18 年 4 月 13 日に名称が決まって商標登録をしました。いろいろと問題がありました。原作者から「図柄」の使われ方などいろいろクレームはありましたが、結果的に「図柄」を正確に使っていきましょうということで、現在、商標登録して、使用に際しては申請して使うというのが現状です。

ねここと兜。兜は小さいですが、大きな角がある。これが効いているんですね。ねこことというのは井伊家二代藩主の井伊直孝公が鷹狩に行った時に豪徳寺というお寺の前で、なぜか白いねこが手招きしている。なんだろうと思って、ねこに招かれていくと、雨宿りしていた場所に落雷があった。お寺で雨宿りしている間、住職と話ができたのも、このねこが福を招いてくれたんだと。招きねこの原点ではないかと言われてはいますが、自分を救ってくれたねこことということで、豪徳寺のお寺も自分を救ってくれたので、ねこを大事にしましょうということで井伊家の菩提寺として現在に至っています。こういう話があって、ねこが兜を被るという図柄が完成します。

一番ブレイクしたのは着ぐるみです。着ぐるみのキャラクターは 300 日前の 5 月 25 日にお披露目しました。これで一躍ブレイクしました。似ているのか、似ていないのか、着ぐるみの方がちょっと可愛いという感じがありますが、目の感じがほんとに可愛いです。着ぐるみができたことが一番のヒットだろうと思います。東京へキャンペーンにいきます。新宿でキャンペーンをしています。何げない仕種が可愛らしい。可愛いと言われると、スタッフも気分よく、ハッスルしてキャンペーンをしてきました。大阪のキャンペーンでも人が寄ってくる。土日はほんとにたくさんの方がいらっしゃいます。性別は不明、「ひこにゃん」という一つの生物なんだという言い方でコンセプトづくりをしています。

最初はどうしていいかわからなかったのですが、だんだんコツがつかめいろんなパフォーマンスをやってきました。歩いたり、ダッシュしようとか、着ぐるみでダッシュはなかなかできないんですが、やってみよう。できました。イナバウアーも流行りましたね。いろんなことをやってきました。職員がブログに今回のひこにゃんと題してアップする。遊んでいるのではないかと思われながらもそれがスタッフと共に人気になりまして、ユーチューブなどの動画で配信されるとまた人気ができました。これは一般的な正座、鏡餅のような感じですが。いろんなパフォーマンスを覚えてきました。「ひこにゃん」が登場すると多くの人に囲まれて大人気です。インターネットの SNS 「mixi」でも昨日現在で 15508 人ということで、ミクシーの中で芸能人並の登録者があるということで、見ていると「ひこにゃんに会ってきました」「ひこにゃん、大好き」とかのコメントがあるくらい非常に人気になりました。関連グッズの売上も築城 400 年祭の

間、上がっています。公式ホームページアクセス、1522万件ということで、251日間で単純に割ると1日6万件平均です。かなりのアクセス数です。それくらい「ひこにゃん」は人気があります。

「ひこにゃん」効果はどうだったのか。当初、目標は55万人くらいだったらいかなというの、それを超えて多くの人たちに来てもらってよかったなど。これ以上に収入が6億円、すごいなど。今まで3億円いったらいいなどというの、倍以上に膨れ上がりました。経済効果。築城400年祭としては174億円の消費があるなど。経済効果は全体的に見れば338億円、彦根市のGDPの7%が、このイベントによってもたらされたという非常にラッキーな、いい効果が現れています。

ここで「ひこにゃん」の動画を見てもらいたいと思いますのでDVDをごらんください。「ひこにゃん」は彦根にとって、なくてはならないということで、これを見ればおわかりになるかと思います。

（DVD上映）

これは築城400年祭のプロモーションビデオです。これから築城400年祭に来ていただきましょうとつくったビデオです。今や、まちの中を歩けないくらい大変なことになっています。この「ひこにゃん」、誰が見ても可愛いと思うんですが、それを見た商店の方が「あれならつくれるで」と。器用なお茶屋の店長が「僕はフィギュアの大会で日本3位になったよ」という、お茶屋さんの人が、近所では「お茶のみ博士」という人ですが、作ったのは「しまさこにゃん」。石田三成が佐和山城の城主ですが、その家臣で島左近という武将がいました。島左近が大好きな八百屋の大将がいます、そして地元のFMラジオのパーソナリティも「私も大好き」と言いだして絵を描いてみよう。「これ、ええんちゃうか。いけるぞ」と、この器用なお茶のみ博士がフィギュアで島左近のキャラクター「しまさこにゃん」ができました。それから「石田三成のキャラクターはどうするのん」と「いしだみつにゃん」。そこでまた今度、女の子もいるでしょうと。ディズニーランドのキャラクターに学ぶということで「ひこにゃん」は何をイメージしたか。ミッキーマウスなんですね。華があって。引き立て役、ドナルドは「しまさこにゃん」。ミニちゃんとか言いだすと「つくっちゃえ」と。井伊直弼の次女が高松にお嫁に行った「八千代姫」がいました。その人から「やちにゃん」。なぜか、全部「にゃん」がつくんですね。「ひこにゃん」

にあやかっていこう。このへんがまち衆応援団ですね。「ひこにゃん」は必ず世界に一つしか存在しません。東京で1時に出演があっても、1時5分に引込んだら、1時10分には彦根城にいる。どこでもドアか超能力を持っているから瞬間に戻れるとか、いろいろ言われるんですけど、「ひこにゃん」は基本的には城のキャラクターです。「しまさこにゃん」は、まちのキャラクターです。先程のDVDで花しょうぶ通り商店街が映りましたが、「ひこにゃん」がパッと振り返ったら誰もいない。そんな地元客相手の花しょうぶ通り商店街からLLPという組合をつくりまして、そこが「しまさこにゃん」、「いしだみつにゃん」の管理をしています。そういうまちのキャラクターができました。

いろんなイベントで、当初、「ひこにゃん」は単独でしか出演しませんでした。「ひこにゃん」がいるところに「しまさこにゃん」が来てむりやりツーショットで写真を撮る。そうすると、しょうがないなど、だんだんと市の考え方も柔軟になってきて「じゃ、いいや、共演しよう」となりました。「しまさこにゃん」の場合は、戦国武将の家臣団がいます。横に三重県津市からきた「津に来て戦隊ツヨインジャー」。津の観光協会から戦隊に入れてほしいということで、わざわざ三重県津市から来ています。津から来て、それに引っ張られて津の観光協会も一緒に商店街のイベントに協力してもらって、これが彦根の町衆の強みでもあります。「ひこにゃん」という一つのカリスマ性を持ったキャラクターと、まちのキャラクターが相まって面白いものになってきています。

戦国武将軍。カッコいいですね。西軍の石田三成、東軍の徳川家康、天下分け目の戦い、関が原の合戦ですが、戦国武将たちです。「采配の行方」ということで、東京のゲームショーがありまして、そこに「さこにゃん」と「みつにゃん」が駆けつけたんです。全国には戦国武将が、せちがらい世になって「義」に関心を示す女性たちが多いです。20代、30代の女性たちが多いのにはびっくりします。そういう戦国武将軍があります。

甲冑も自分たちでつくってコスプレのような感じですが、マニアの人たちが多くいます。そういう方たちに後押しをされて「ひこにゃん」は「ひこにゃん」でいいんだけど、西軍の義を重んじる方たちがいる。花しょうぶ商店街は西軍最前の人たちが多くですね。ということで商店街の思惑とも合致して、これは面白いなど、そんな

ふうに進展してきました。

彦根のまちの中の銭湯が廃業されたんです。勿体ないなということで改装しました。男湯は東軍、女湯は西軍として東の陣、西の陣、真ん中は取っ払って、戦国グッズを置いています。グッズの商標管理をしています。インターネットでも石田三成の「みつにゃん」グッズとか「しまさこにゃん」グッズとかあります。いい年をしていっぱい、「ひこにゃん」「さこにゃん」「みつにゃん」を皆、携帯電話のストラップに付けたりしています。そんなことをやっています。

LLP、まちの駅も商店街が中心ではあるんですが、20人のうち10人が商店街で、あとは公務員とか大学教授、会社員あり、私も含めて出資をして商標管理や拠点の運営もやっています。商標管理、商品販売、認証シールを発行してロイヤリティをとっています。着ぐるみの貸し出しもしています。そんなことをやっております。

商店街に古い町並みがまだ残っています。昔、寺子屋に使っていた場所も。そこで学生さんたちが何かできないのかということで、教職をとっている大学生が小学生に勉強を教える「寺子屋力石」に。勉強といっても宿題をみてあげるということで、一緒に昔ながらの遊びをしましょうと、おさらい学校をしたり、あとは市民が主役になって講演をする。お話をします。毎週土曜日に、いろんな人が講師になってお話を聴く会をつくっています。そういう企画ができました。この拠点が滋賀大学のまちなか研究室、県立大学のまちなか研究室と位置づけをしながら皆で盛り上げていきたいと思います。

キャラクターとイベント。今日は「ゆるキャラ」の活用ということもありますので「ひこにゃん」が非常にブームになったということで、彦根商店街連盟を母体にして「ゆるキャラまつり in 彦根」を企画・運営しました。今年10月25・26日にやりました。築城400年祭のキャラクターだったんですが、今は「井伊直弼開国150年祭」という別のイベントを立ち上げていますので、そっちの方にキャラクターは行っています。井伊直弼は茶の湯を愛した人でもありまして「一期一会」、おもてなしの原点ではありますが、一期一会の教えに則って「ひこにゃん」が皆さんをご招待して、おもてなしをしたらどうかということです。実際、ちょっとした奢りもあったんですね。「ひこにゃん」は人気だからということが若干はあったんですが、しかし出張旅費は全くなしなので、どこから来るかわかりませんが、北海道から沖縄まで自治

体が管理をしている「ゆるキャラ」は130くらいあります。全部に手紙を書きました。返事が帰ってきたところが、39自治体から返事がありまして、そこには「ひこにゃんからの招待状」ということで書面を書きまして46体が集まってまいりました。

ほんとにびっくりしました。どれだけ人が来るかなと、わかりませんでした。最初は大正ロマンに生まれ変わった四番町スクエアでしようと思っていたけど、ホームページのアクセスがどんどん増えるんですね。「怖いな、怖いな」と思いながら、どうしようもないから警察に道路通行止めをお願いしたら「今頃、何を言うてるねん」と怒られまして、もつてのほかと言われながら、そう言わずに商店街を貸してよ、まちなかを貸してよと言いながら、結果的には拡幅した江戸町屋風の商店街「夢京橋キャッスルロード」があるんですが、そこを舞台にしました。今までゆかた祭というイベントで1万人くらいが、せいぜいマックスだったんですが、今回、警察の方には主催者側から2万人と言いましたが、絶対、3万人超えているかなと思うんですが、あまり大きい数字を言っちゃうといけないので2万人くらいにしておこうと。一応、公式発表1日2万人にしました。ほんとに取材やテレビもすごかったですし、NHKもヘリコプターを飛ばしまして上空から撮影するんです。「人、人、人、これだけ人がいますよ」と。うれしいような誤算でしたが、ほんとにたくさんの人が集まってくれました。

仙台から福岡から集まっていたきまして、一番何が人気だったか。「せんとくん」の人气がよかったですね。イベントの直前1週間前にテレビ東京系列で、「ゆるキャラ」の運動会が放映されまして、その時に「ひこにゃん」が頑張るんですが、すぐ負けるんですね。でも審査員の「みうらじゅん」さんが「ひこにゃんを残しましょう」と言って、負けても必ず残るということで非常にありがたかったんですが、なぜこんなに弱いのかというくらい。その時は「わたる」君という、瀬戸大橋のキャラクターの彼が優勝して、運動会の直前にヤフーの人气投票で一位になったという三重県伊賀市の「いが☆グリオ」とか、栗みたいなキャラクターが出てきまして、それも人気でした。テレビ局のたつての要望で和解シーンを撮ったんです。「せんとくん」は仏教界が何言うてるねんと、盛り上げるのにそんなにいがみあってはいかんということで、伸直りをする。その伸介役を「ひこにゃん」がしましょうというシチュエーションになりまして、お互いに

物々交換をしたんです。「なーむくん」が、「せんとくん」にあげたのはTシャツ、裸で寒いだろうと。互いにプレゼント交換をして、そして仲直りという。ずいぶん報道で週刊誌にも載っていましたが。一種、面白いイベントでした。内情は大変苦労しました。警察とやりあいながら。2日間の集客は4万6千人の発表でした。ほんとは、6万人は軽いですね。経済効果は2億円、今年の築城400年祭の時に試算した宿泊者の参加、日帰りの参加を掛け合わせると、これくらいいくんです。多分、最高の売上を商店街は上げています。四番町スクエアも売上を上げています。花しょうぶ通り商店街では綱引き大会をして、2日目は雨が降ったんですが、雨の中をやってまいりました。「ゆるキャラ」が集まって新聞、メディアでも報道されて、スタッフも次はどこかにやらしてもらおうという意識でしたが、1週間、10日たって、来年もしようかと言って、懲りない面々がやっております。

これは佐和山でのイベント、石田三成は私が演じました。LLPのメンバーで何かしようということで、伝承劇「石田三成と島左近」のタイトルで佐和山城の跡で劇をし、その時に石田三成、西軍の大將、大谷吉継は敦賀の武将ですが、徳川家康に勝負するとはどういうことだと、石田三成を止めに行ったんですが、この二人は豊臣秀吉に仕えた盟友でした。大谷吉継は、らい病、ハンセン病を患って顔に膿が出るということで覆面をしています。シーンでは覆面をしているキャラクターになっていますが、大谷吉継が石田三成を止めに行くんですが、三成の決心は固い。そこで「わかった。負けるかもしれないが、自分も加勢しよう」と。まさしく「義」という点で、これが女性たちに受けています。全国から約2000人。北海道から九州まで、よう、来るなと思うんですね。チラシがありますけど、これは市内とかしか撒けないので余ったんです。ほとんどインターネットです。今回のそもそもの目的は武将たちの盟友ということで、11月23日にキャラクターを見るために、あちらから、こちらからもいらっしやいました。「どこからですか?」「仙台から」「私は近いんですけど」「どこからですか?」「長野」「遠いやん」。普通に「九州から来ました」「高知から来ました」とかびっくりするくらい、いらっしやいました。そんな「ゆるキャラ」ブーム、一種、マニアックな面もあるんですけど、そのへんも最近、地域の活性化という点で「ゆるキャラまつり」のイベントが終了してからも問い合わせがきます。「来年もするんですか?」「うちも

つくったんですけど、来てください」とか結構、声が多くかかってきます。各自治体も自分のところのまちを何とか盛り上げたいということで「ゆるキャラ」ブームに乗っかろうということで、キャラクターづくりに励んでおられます。裁判員制度がありますよね。あれもキャラクターをつくったりしています。とんでもないところでもキャラクターをつくっているのも何でもありだと思いますが、ちょっとしたブームで、この2、3年は行けるかなと思いながら、こういうことも考えていきたいと思っています。

城下町の挑戦で、学生とのコラボ。市民活動に学生さんもかかわっています。花しょうぶ通り商店街、まちのキャラクターのできあがった場所の写真です。「アートフェスタ勝負市」、花しょうぶの花は6月です、それと勝負をかけて6月にイベントをしました。彦根市内に3つの大学があります。11万人都市で3つの大学があるのは珍しいんですが、滋賀大学経済学部、滋賀県立大学、私立大学の聖泉大学、あとミシガン州立大学日本センター、その学生が実行委員として、必ず花しょうぶのイベントにかかわることが、毎年恒例になりました。その代わりに、学祭には商店街の人たちが欠かさず行くという。お互いの協力関係ができて商店街とともに大学の学生さんたちが入っています。商店街の壁面が殺風景だったので何か絵を描こうと。学生さんがデザインして商店主がペンキを買ってきて共に絵を描いたこともあります。

築城400年祭が終わりまして、さあ、「ひこにゃん」をどうしようかなということでしたが、次のイベントを考えようかと担当者会議があつて。ちょうど井伊直弼が大老に就任したのが6月、約1年9カ月の時点で桜田門外で亡くなるんですね。その間に開国150年祭をしよう。横浜も来年、開国150年のイベントをやりますので、そこに便乗しようかと。「ひこにゃん」をつけただけなんですけど、井伊直弼の正しい情報を。吉田松陰を殺したとか、そのへんで悪人だと言われますが、「これはお役目ですから」とNHK大河ドラマ「篤姫」の中でもセリフがありました。来年の大河ドラマは「天地人」という米沢の直江兼統という人の物語です。直江兼統は西軍です。石田三成が必ず出てきます。石田三成は小栗旬がやります。彦根も何とか各メディアで取り上げていただきたいなど。私は石田三成役をしましたけど、小栗旬になろうと思ったんですけど、土台に無理がありました。

彦根流キーワード。井伊直弼が茶人で「一期一会」と言っています。おもてなしの原点であろうと。この瞬間、この時は一生に一回しかない。お茶のもてなしの作法の中で、お客さんが帰られた後でも、先程はこう言っておられたな、今頃、無事に帰られたかなという思いにふけるのが大事だと。それがおもてなしだと。築城 400 年祭でキャラクターをつくってみたいとか、実際やってみようかということで、お膳立てができてきた。それを原点に、今後は百の愚痴より十の提案。文句は 100 でも 200 でもいっぱい言い訳は言うんですけども「じゃ、なんか書いて出してよ」と。100 くらいグチを言うなら 10 くらい提案してよと。言いつばなしではなく提案をしよう。十の提案より一つの実行。やってみよう、実行していきましょうよと、一個一個というのが「ゆるキャラ」の根本でもあります。そういうことでつくってみました。やってみよう、実行がすべてです。

まちを盛り上げていく。いろんなかかわり方が各地にあります。皆さんも縁あって京都にいらっしゃいますから、そういう点では全く違うところが京都にはあるし、そしてまた自分が生まれ育った場所、そこが活性化してテレビなどで放映されるとうれしいものがありますよね。ああ、あそこは出身地だと。そこが元気だと、うれしいなど、そんな気持ちは皆、一人ひとりの心の中にあります。それを大事にさせていただきたいと思います。

あとはチラシを配らせていただいています、インターンシップのチラシもあります。12月3日です。印刷物には必ず「ひこにゃん」とか、キャラクターを使うようにしています。それで目を引くということで効果がありますので。12月3日、6時、彦根商工会議所に来てもらったらインターンシップの勉強もできますよと。それとふるさと納税をしていただいて「ひこにゃん」基金をしていただいたら、彦根城の無料券をもらえますとか。そんなことで彦根のPRをしております。「ひこにゃん」と「さこにゃん」、11月30日、BS2で放映されます。またご覧いただきたいと思います。予定の時間になりましたので、ここで「しまさこにゃん」に登場してもらいます。テーマ曲をかけて登場してまいりますので、今し

ばらくお待ちください。

ほとんどお茶のみ博士の手づくりです。夏休みに学生さんに着ぐるみをお願いしたら、脱水症状を起こして病院に運ばれちゃったんですね。これで私の話を終わらせていただきます。ありがとうございました。

**司会** しまさこにゃんは、しばらくいてもらいますので写真撮影などもどうぞ。質問のある方はどうぞ。

**質問** 昨今、城とか再建ブームがありますが、今後、そういうものを再建されたりするお考えはおありですか？

**安達** 再建にはかなりの費用がかかります。下屋敷という井伊直弼の屋敷跡を、そこを再建しようと。土台から解体してつくり直すんですが、37億円かかります。図面とつきあわせをして復興していこうとすると、びっくりするくらいの金額につくので、櫓をつくらうとなると 100 億円を超すと思いますので、なかなか厳しいですね。

**司会** それではこれで終了させていただきます。特に今回のお話を聴いて僕が思ったのは、話の中に出ていた夢京橋キャスルロードの商店街を見せていただいて、非常に景観に気を配っていて、活気があるなど感じました。今回の「ゆるキャラ」とあわせても、大事なのは住民参加をどう促すか、それを一つのきっかけとして住民がまちづくり、商店街の活性化に参加していく中で、こういうキャラクターも重要になってくるのではないかと思います。今日は貴重なお話をどうもありがとうございました。

**安達** 実際にごらんになりたいと思いますので、ぜひ彦根のまちにおいでください。

**司会** ぜひ彦根のまちに行っていただきたいと思います。今日はお集まりいただき、本当にありがとうございました。

#### 付記

本稿は、2008年11月28日に行われた立命館大学政策科学会主催による秋季公開講演会の全記録である。